

E C Cアーティスト美容専門学校 学校関係者評価 報告書

学校法人山口学園 E C Cアーティスト美容専門学校 学校関係者評価委員会は、2022年9月7日に「令和3年度自己評価報告書」に基づいて学校関係者評価を実施しましたので以下のとおり報告いたします。

2022年9月7日

学校法人山口学園
E C Cアーティスト美容専門学校
学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員（「E C Cアーティスト専門学校 学校評価実施規定」選出区分）
【関連業界等関係者「同第12条第1項（1）」】

委員長

宮崎 裕輔 氏（株式会社クラフト・ワークス 人材開発部）

【卒業生「第12条第1項（2）」】

鈴木 亜理紗 氏（E C Cアーティスト美容専門学校卒業生）欠席

【保護者または地域関係者「第12条第1項（3）」】

中上 隆雄 氏（済美地域社会福祉協議会 会長）

【その他校長が必要と認める者「第12条第1項（4）」】

大久保 紀子 氏（一般社団法人 ジャパン・ビューティメソッド協会 JBMA）ZOOM

川畑 勉 氏（資生堂プロフェッショナル株式会社 営業部部長）

貴治 康夫 氏（立命館高等学校）

【同席者】

川添 雅英 E C Cアーティスト美容アーティスト美容専門学校 学校長代理

東井 喜美 E C Cアーティスト美容アーティスト美容専門学校 副校長

辻浦 誠司 E C Cアーティスト美容専門学校 教務課

兼田 寛子 E C Cアーティスト美容専門学校 進路指導課

井田 卓弥 E C Cアーティスト美容専門学校 入試課

西村 宗博 E C Cアーティスト美容専門学校 教務課

井上 久美 E C Cアーティスト美容専門学校 専任教員

議事録

宮崎様：本日の司会を務めますクラフト・ワークスの宮崎です。よろしくお願いいたします。まず初めに、外部委員の皆様をご紹介いたします。その際に、外部委員の皆様は一言お言葉をいただければ幸いです。一般社団法人ジャパンビューティーマソッド協会大久保様。

大久保様：こんにちは本日はそちらへ伺うことができず Zoom での参加となりまして申し訳ございません。有益になるようなご意見をできたらと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

宮崎様：大久保様、ありがとうございました。よろしくお願いいたします。続きまして資生堂プロフェッショナル株式会社川畑様です。

川畑様：久々の対面ということで緊張しながら参加しております。よろしくお願いいたします。

宮崎様：川畑様、よろしくお願いいたします。続きまして貴治様、よろしくお願いいたします。

貴治様：よろしくお願いいたします。現在京都の皇學館高校と、その他あちこち受け持ちしております。引き続きよろしくお願いいたします。

宮崎様：貴治様よろしくお願いいたします。では次に済美地域社会福祉協議会の中上様、よろしくお願いいたします。

中上様：こんにちは社会福祉協議会の中上です。ここ2、3年はコロナでなかなか地域活動もできなかったんですけども、今年7月の地域のカーニバルから、地域行事もコロナ感染に注意して進めていくということになりました。これから ECC の学生さんにもたくさん参加していただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

宮崎様：卒業生の鈴木様は、本日欠席となっております。続きまして同席者の紹介をさせていただきます。

川添：学校長代理の川添です。本日はよろしくお願いいたします。

東井：副校長の東井です。よろしくお願いいたします。

辻浦：美容科責任者をしております辻浦です。よろしくお願いいたします。

井田：入試課責任者の井田と申します。今年度から入試課のとして学校関係者会議に同席させていただきます。よろしくお願いいたします。

井上：美容科専任教員の井上と申しますよろしくお願いいたします。

宇佐見：学園本部の宇佐見と申します。本日はよろしくお願いいたします。

西村：本日の書記を務めさせていただく西村です。よろしくお願いいたします。

宮崎様：なおキャリアセンターの責任者の兼田は、本日怪我の療養のため欠席となっております。では本日の議案についてお伝えします。まず学校長代理よりあいさつの後、先日学内で行われました自己評価委員会での内容について、事前に送付をさせていただきました報告書に基づき、各部署責任者より報告いたします。各項目ごとに委員の皆様のご質問、ご意見を頂戴してまいります。終了は18時を予定しております。大久保様、途中聞き苦しい点等ございましたら、挙手にてお知らせください。円滑な議事進行

に努めてまいりますので、ご協力のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。では学校長代理、よろしくお願い申し上げます。

川添：改めまして学校長代理の川添と申します。本日はお忙しい時期にも関わらずお集まりいただきまして本当にありがとうございます。昨年はコロナ禍でオンライン開催でしたが、今年は久しぶりに皆様お集まりいただき開催することができました。今後もよろしく願いいたします。では今から、先日学園内にて行われました学内の自己評価委員会の結果に関しまして、皆様に事前にお送りしております報告書に基づきご報告し、皆様からのご質問、ご意見をいただきたいと考えております。自己評価委員会を実施した際には学内で課題を共有しておりますが、学校の中だけでは解決が困難な事柄もあり皆様方からのご意見をいただければと思っております。何卒よろしく願いいたします。まず私から基準 1 と基準 2 を報告させていただきます。まず基準 1 ですが、1-1-1「理念・目的・育成人材等が定められているか」の項目となります。専門学校の大きな目標としては人材育成、つまりどのような教育をして人材を社会に排出するのかということがすごく大事になります。学校として目標を定めており、ハンドブックや集会を通じて学生、教職員に明示はしておりますが、課題としましてどう周知、徹底して落とし込んでいくのか、方法が課題になっております。これは後ほどご意見、アドバイスをいただければと思います。次に 1-1-2「人材ニーズに適合しているかどうか」です。上記の人材育成像が社会ニーズに適合しているかどうかの判断ですが、平成 21 年度から全コースで教育課程編成委員会というものを実施させていただいておまして、コースごとに関連企業様サロンの関係者、関連団体様をお呼びいたしまして、ご意見、お考えをお聞きするようになっております。課題としましては、参加していただいている限定的な企業様の声という形にならないように情報を集める必要があると考えております。方法として企業様に直接訪問してお声を聞いたり、アンケートを取得したりと考えております。次に基準 2 学校運営についてご報告いたします。2-2-1「理念に沿った運営方針を定めているかどうか」です。運営方針に関しましては毎年定めており、年度開始前に教職員に学校方針を伝えるようにしております。また後期授業開始前にも前期の振り返りとともに再度方針の確認を行っております。次に 2-3「事業計画」であります。中長期的なビジョンというものが明示されておりませんので、2024 年度から中期目標（3 年計画）を作成する予定になっております。それから 2-4「運営組織」に進みます。こちらは記載されている内容をご覧いただきたいと思っております。続いて 2-5「人事給与制度」ですけれども、職員及び専任教員ともに面談を行いまして、各個人の目標、達成度を組織として確認しつつ評価をしています。また専任教員に関しましてはその際に学校へのご意見を伺うこともしております。2-6「意思決定システム」の項目ですけれども、教務課、キャリアセンター（進路課）、入試広報課の各課内及び部署を総括しての部署責任者会議を実施して課題、問題に対応しています。問題としては、議事録は作成しておりますねもちろん確認とっておるんですけれども、規約が明文化されていないことが当面の課題となっております。最後に 2-7「情報システム」となります。2021 年度に山口学園全体で LMS（Learning Management System）の稼働がスタートしております。山口学園にはコンピュータ専門学校、国際外語専門学校があり、各校でニーズが多少異なっており、当初計画していた効率的に運用にはまだいたっておりませんが、このコロナ禍での授業形態に対応できるオンデマンド対応の機能がついておりますので、活用を検討しているところです。また学校からの情報の発信に関しましては学校連絡アプリを導入しており適切な時期、内容での情報を発信し、共有に努めています。

基準 1 と 2 のご報告は以上になります。報告の中にありました、「理念・目的・人材育成像」の周知徹底、教職員及び学生への落とし込みに関しまして、何か方法などご意見をいただけると幸いです。現在は年 2 回の集会で目標やポイントは伝えておりますが、説明の仕方や教職員、学生への共有がしやすい方法があればご意見をお聞きたいです。

宮崎：では全員にお話をお聞きたいと思っております。大久保様、ご意見よろしいでしょうか。

大久保：教育理念や育成人材像の周知ですが、年 2 回の情報共有は行っていらっしゃるということですし、あとは都度都度、いろんな機会を捉えて回数を重ねて説明をしていくことが重要なことではないか、と思っております。時期も何か月に 1 回の会合や、小さな単位のあのチーム会とか、どんな会合でも都度都度共有を図っていくということがとても重要だと考えております。以上です。

宮崎様：大久保様、ありがとうございました。川畑様、よろしくお願い申し上げます。

川畑様：同じようにまずは大きな共有の場を持つということと、あとは例えば年度末などに個人面談というのを、教職員に関しては行います。それから、外部講師の方に関しては年に2回、年初と年度末になりますが、個別面談を行ってお互いの意思疎通並びに学校の考え、大きな理念に基づいた年度計画を共有させていただいております。

宮崎様：川畑様、ありがとうございました。続きまして貴治様、お願いいたします。

貴治様：高校の場合は、みなさんがおっしゃったような教職員会議を利用します。例えば職員会議であれば校長がまず最初に話し、学校方針の伝達を行います。次に学生、生徒ですが例えばテレビ等を使って視覚的に作っていくことがありました。目に飛び込んでくるものは全員ではないけれども教育目標を言う生徒もいましたので都度繰り返し、映像等ですりこむようにすると定着することもあるのではないのでしょうか。

宮崎様：貴治様、ありがとうございました。では中上様、お願いいたします。

中上様：地域活動に関しては、この2年間はあまり動きがありませんでした。私にはこの地域に住んでよかったなとみんなで思っていたきたいという目標があります。その中で、種々の活動ができないと地域の役員さんのモチベーションが下がってしまっていることが大きな問題になっています。モチベーションを何とか上げていくのには、目的をしっかりと理解することと続けることが大事だろうという話になります。以上です。

宮崎様：中上様、ありがとうございました。では私の勤務しているクラフトワークスでは始業前の理念の唱和などの方法を取っているところもあります。社員全員理念をちゃんと理解していました。私ども社員として、理念をしっかりと体に刻んでいると、やっぱりぶれがない。技術やその他、いろんな向上を目指すときに迷うときがあるのですが、やっぱり何かあったらそこに戻れるっていうところでは、必要なことだと思います。ありがとうございました。

宮崎様：では続きまして資料12ページからの基準3と基準4を東井副校長から報告させていただきます。東井副校長よろしく申し上げます。

東井：では基準3「教育活動」に関しまして報告いたします。3-8「目標設定」ですが、現在大きくは人材像として学校全体のDP（ディプロマポリシー）の設定とDPを実現するためのCP（カリキュラムポリシー）を作成しております。卒業時には学生自身が何ができるようになったかを自分の言葉で他者に説明ができる状態を目指しております。また専門分野ではコースごとにDPとCPを設定しております。2021年度までは、到達レベルの明示が不徹底でしたが、授業開始時に科目の目標の説明を徹底するようにしております。また2022年度からは目標達成シートというものを記入させ、到達レベルの可視化を図っております。学生は将来の自分の目標を①年次から記録させ、途中経過を記入していきます。在籍中は修正を行いながら、卒業時に目標を達成できているように作成していきます。効果を測定していきたいと思っております。次に14ページ3-9「教育方法・評価」の報告をいたします。教育課程編成委員会を各コース年2回開催し、業界のご意見を頂戴しています。また企業連携授業の必須化やインターンシップを数多く取り入れ、より実践的な教育を展開しています。それぞれいただいたご提言の中から、業界から求められる人材を確認しています。その中から人間力に関してのご意見が最近増えております。挨拶や気遣いを気づかせ、自発的にできるようにしたいのですが、何をどう身につけさせるかは非常に難しく、後ほどご意見をいただきたく存じます。3-9-4「授業評価」に関しましては年4回学生アンケートを行い、アンケートの結果を踏まえて授業改善に努めております。また授業だけではなくセミナーや校外学習全てに関してアンケートを取得しております。課題はアンケート結果の整理と分析が不十分ですので、今後実行していく予定です。3-10「成績評価」に関しては、テスト点、課題点、平常点からなる総合評価としております。その配分の妥当性に関しましては、毎年見直しております。コロナ禍でICTを活用したハイブリッド型の授業の導入で、学生は学校に来て授業を受けるのではなく、ビデオコンテンツを視聴して答えるように学び方が変わっております。そういった点も考慮して授業評価方法や基準見直すよう考えており、今後の課題と

なっております。3-11「資格・免許取得の指導体制」に関しましては、正規の授業の中で必要な資格が取得できるように設定しております。別途選択授業を設定しており、上位の資格を目指す学生にも対応しています。全学生にi-Padを貸与しており、繰り返し学習できるコンテンツなどで活用している。ただり学生のレベル格差がどんどん広がってきており、今まで以上に個別指導で学生のサポートを行う必要ができています。また人間関係や精神的な問題を抱える学生も増えている状況です。18 ページ 3-12「教員・教員組織」の項目ですが、コース、科目により教員の確保はかねてから困難な状況が続いています。業務分担ができるようなシステム方法を模索しており、また採用面では企業様のご協力を得ています。

引続きまして基準 4「学修成果」の報告をいたします。まず 20 ページ、4-13「就職率」の項目になります。当校では就職が最も大きな成果であり目標の一つと考えています。教育内容と就職活動がリンクするようにコース別に行われているコースデザイン MTG での情報共有とカリキュラム設定として業界研究から就職対策授業までの連携を強化するために、カリキュラムや授業内容の見直しを行っています。また 2021 年度より学校のキャリアセンター（進路指導部）をサポートする新しい部署である「キャリアセンターサポート」が山口学園本部に新設されました。学生に寄り添った形で行うように授業での個別指導をキャリアセンターサポートとともに行ってまいります。続きまして 22 ページの 4-15「卒業生の社会的評価」の項目となります。在校生のモチベーションアップや社会に卒業生の活躍を発信するために、卒業生の状況を過去 5 年間の就職先企業様にアンケートにご協力をいただいております。いただきました情報を次年度以降の教育活動に反映し、前述のコースデザインミーティングに図っています。また 2021 年度から OB・OG プロジェクトを発足させ、卒業生との交流を絶やさないようにイベントを開催しております。学校からの情報発信ツールとして公式 LINE を使用し、卒業生が参加できるセミナーの案内や、スポーツ大会等の学校行事を学校から発信し、卒業生も手軽に情報を収集できるようにしております。基準 3、基準 4 の報告は以上となります。

宮崎様：ではこの項目に関しましては、学修成果を出すために、いかに人間力を高めるか。学修成果を出しづらい学生に対しての指導方法などのご意見を委員の皆様からお聞きしたいと思います。では貴治様からお願いいたします。

貴治様：新しい世代の人間力をどう育てるか。答えはまだ出ておりませんし、学校とても検討しないといけないところですが、非常に難しいです。例えば学校設定科目でボランティアや社会福祉活動を行います。普段できない交流の中、生徒がどんな様子をしているか、どのような行動や思考を持つかなどで、人間力を図ったりしています。

宮崎様：貴治様、ありがとうございました。では川端様、よろしくお願いいたします。

川畑様：難しい問題ですね。私自身も 2 年ぐらい前から必要な情報収集や、何をしないといけないのかを考えていますがまだ結論はありませんが、その中で時間と使い方を自分たちで決めさせ、考えるということがありました。例えば休みの日でも、どのように時間を使っているかでパワーを持って帰るのが違っており、伸びるタイプかどうかわかります。あとは提案ができる人かどうかというところは非常に重要だと思います。どうすれば提案型のタイプの人間に成長できるかはまだわかりませんが、人間力という項目に提案ができる人材があるといいと思います。

宮崎様：川畑様、ありがとうございました。次に大久保様、よろしくお願いいたします。

大久保様：課題が人間力ということで、本当に難しい問題だと私も思っております。協働する力や問題解決力は、やはり何らかの実体剣を伴わないと育むことが難しいことだと思いますので、例えば当校では学生会、いわゆる生徒会のようなものを発足させて、学生が主体的に動けるように行事やイベントを、その学生開運のメンバーを中心として計画させ、運営もさせています。それ以外だとオープンキャンパスのチームが別に作っていたり、ヘアメイクの技術強化を授業以外でやってみたいという学生たちを一つのチームとして技術を磨くということをしています。チームとしてお互いに協力しあいながら人間力を向上させるというところを期待していますが、学生全体まではまだ至っていません。しかし様々な学生が主体で動けるような場

を設けて、教職員がそれを上手にナビゲートしています。グループ活動をする中でいろんな問題に直面します。目標を達成するための問題解決方法を少しでも身につけるような取り組みを始めていて、申し上げたようなチーム活動も人間力を育むという点では非常に有効かなというふうに思っております。以上です。

宮崎様：大久保様、ありがとうございました。次に中上様、よろしく願いいたします。

中上様：学生さんが地域のいろんなボランティア活動参加されて、少しでも教育にプラスになってくれたらいいと思っています。地域には高齢者も多くなっており、また全く違う業種の人も行事には参加されていますので、そんな中での行動がこれからの人生のプラスになってくるかなと思うんです。

宮崎様：中上様、ありがとうございました。では私からもお話しさせていただきます。やはり弊社でも技術の進展がなかなか進まない社員もおりますが、そこは他の部分でフォローできるんです。例えば動画配信が有効で、さまざまなコンテンツを作り、どこでも復習できるような仕組みを整えるように考えています。難しいのは入社したときは、誰よりも上手で早い人が年数を重ねていくと無理したのか成長をしないこともありあります。そういう時は上司に相談したり、本人と話をしますが、変化があるときがあります。指導者次第だと思うんです。そこにどう対応していくかという問題があって、指導できる体制というのが本当に大事だと思います。ECCさんの考える理想の学生もそうなんです。卒業するときに、「学校で学んだことを自分で理解して、何を学んだかを説明できる人間を輩出していきたい」とのことですが、うちのところも同じです。今の目的を理解してくれたら新しい道が見つかり、根付いた勉強ができて、何十年とこの業界で仕事を続けることができると思います。人間力向上っていう目標に基づいて、私ももう20年やっていますが現実では何を求められたかという、本当に考えてしまいます。弊社の最近の取り組みでは、小項目別に基準が設けられていて、例えば、元気に挨拶できるなどの項目があります。結局それが良くなるとパフォーマンス向上ができていく感じがします。指導者としては今までは闇雲に誰かのために頑張ろうとかの意識があったのですが、それが項目順にわかれたのでわかりやすくなりました。ECCさんが報告してくれた基準も参考に弊社でもさらに選んでいきたいと思えます。さらに在籍年数に応じて見直して、基準を作っていきます。参考になればいいのですが、以上です。

それではここで、10分の休憩を挟みまして15分から再開させていただきます。

宮崎様：では再開させていただきます。よろしく願いいたします。

辻浦：それでは基準5 学生支援から報告を続けさせていただきます。24ページ「就職等進路」をあけてください。具体的な取り組みのところですけども、マイクロソフト社のTeamsを使用してコース別に求人情報、そして過去問などを配信するという形を21年度から行っております。それまではアプリでの配信や紙媒体で保管しており、学生が見にくいというような不便さがありましたが Teams を使用することによりタイムリーに情報が発信できるという体制になっております。また学生だけではなく関連の教員や部署にも配信するという形をとっております。教職員、学生全員が I-pad を所持できているので可能となりました。次に企業説明会、業界セミナーを学内で開催するために企業様にお越しいただいて実施するという形で就職活動のバックアップをしております。また個別指導も放課後や昼休みに以前は紙で予約していましたがこちらリザーブという、ネット上で予約ができるようにしたところ、より効率的に実施することができるようになりました。課題としまして筆記対策がクラス内で基礎学力にばらつきがございますので、二極化が生じており、授業進行が非常に難しいというのが課題になっております。全体授業を行いながら個別対応を行っていますが、レベルは別授業での対応を今検討しているような状況です。もし何か二極化対策としての授業方法で良い方法がありましたらアドバイスいただければと思っております。そして特記事項のところになりますが、オンライン面接、オンライン説明会対策が今非常に求められております。Web 面接専用ルームを3部屋設置しており、本番はもちろん、日々の面接指導にも活用しております。では次のページ 25 ページ「中途退学への対応」になります。退学率の減少は学校として非常に大きな課題になっております。現状では担任が付き、教務課スタッフがコースに張り付いて学生の状況把握に努めております。また授業担当講師同士が連絡を取り合っており、学生の様子を共有しております。状況に応じて、学生面談、保護者との連携を図りながら欠席の長期化を防止するという対応を図っております。また心理的な問題を抱える学

生が年々増えておりますが、こちらは臨床心理士のスクールカウンセラーがいる学生相談室を開設しており、連携をとりながらサポートを行っております。課題としましては先ほどご説明しました、心理的な課題を抱えた学生が増加し、対応する人員や時間に関しても確保が難しくなっており学生相談室を強化しながら学生サポートができる体制づくりが必要になっております。続きまして 26 ページ、「学生相談」の項目になります。先ほどの項目と同様になりますが、現状は担当が学生相談の主たる相談者になっております。状況に応じて教務課スタッフ、心理的な問題に関しましてはカウンセラーも含めてサポートをしております。課題としましては、このサポートが非常に難しくなっておりますので、教職員チームを作ってサポートする体制が必要という状況になっております。その下の項目の留学生の相談体制ですが、留学生数は山口学園全体では多いときにはコロナ前に 1000 人近い留学生がいたんですけども、元々アーティスト美容専門学校は留学生が少ない学校となっており昨年度が 5 人そして今年が 1 人在籍している状況になっております。教務課の留学生担当スタッフが相談窓口になっており、出欠管理、在籍管理や入管への報告業務等を行っております。また日本語の授業も設定しており、日本語の向上を図っております。続きまして 28 ページ「学生生活」の項目です。経済的な支援体制ですが、入学時点で学費免除や給付型奨学金を準備しております。また一人暮らしの学生への支援制度あるいは特定の検定試験合格した際にも入学時点で給付や学費減免をしております。高等教育の無償化制度でも対象校となっておりますので、運用を的確に実施しております。課題ですが、まだ始まったばかりの制度の高等教育の無償化の適格認定を間違いなく行っていく体制及び知識の習得が必要になっております。29 ページの健康管理業務体制等は変更ない状況です。30 ページ「課外活動に対する支援」ですが、コロナの影響でほとんど活動ができない状況になっておりました。この状況下において自主学習の一環としてゼミ活動を実施し推奨しております。上級生が下級生を教えて指導するというような仕組みをとっており、活発な活動となっております。続きまして 31 ページ「保護者との連携」の項目となります。保護者との連携に関しましては年 2 回の保護者会を開催しております。2011 年の保護者会はコロナの影響もありまして、オンラインもしくは電話で行うことにいたしました。オンラインに関しましては不慣れな保護者の方がおられることによって時間の配分に支障が出る問題がありました。今年度はオンラインもしくは対面形式で行うことができました。では次に 32 ページ「卒業生・社会人」の項目になります。卒業生の支援体制の整備に生かしましては、同窓会を整備することを検討していますが、職種によって休日が異なるという状況があり、特定の曜日や休日で開催すると出席可能コースに偏りが発生するため、コース別に実施することを考えております。21 年度は美容科のみの開催で在校生も含めてのセミナーを実施し、併せて同窓会も実施しました。今後の課題に関しましては、同窓会の告知、認知度を上げていく必要があるということです。方法としましては先ほど東井からありました通り「OG OB プロジェクト」を行っており、LINE でほぼ卒業生全員とを繋がることできるようになっております。また学校からだけではなく、卒業生の方から問い合わせがあったり、告知ができるような体制が取れるようになってきております。21-2 卒業生の技術向上に対する取り組みというのは現状では特に行っておりません。21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境の整備に関しましては、現状では予定はしておりません。

では次の基準 6 の「教育環境」に入らせていただきます。34 ページ「施設・設備等」につきましては、課題の解決のところのご報告となります。3 年制の学生が増加したことにより、シャンプー台が一時不足しておりましたが 2021 年度に増設しております。次に 35 ページ「学外実習・インターンシップ等」の項目になります。当校では英会話授業を全クラスに必須の授業として導入しておりますが、上級者向けの特別クラスを無料で開講しております。海外研修はコロナの影響で全面中止となりましたが、オンライン海外研修に変更して実施いたしました。インターンシップと取り組みに関しまして、専任教員の井上からご報告いたします。

井上：委員の皆様、よろしくお願いたします。美容科 3 年生のインターンシップでこちらにいらっしゃいますクラフト・ワークス様から大胆な計画をご提案いただいた企画が現在進んでおります。クラフト・ワークス様が展開している実際のサロンの一角を使わせていただいて、学生自身が営業、施術を行うという形で展開させていただけることになっております。今後ともよろしくお願いたします。

辻浦：では引き続きご報告させていただきます。英会話学習の上級者には、海外の美容学生とオンラインをつないで交流を行う試みを行いました。昨年度は台湾の学校とオンラインをつなぎ、そして今年度はイ

インドネシア、台湾の学校との交流展開を予定しております。続きまして 36 ページ「防災・安全管理」に関しましては大きな変更はございませんので割愛させていただきます。私からの報告は以上となります。

宮崎様：ご報告ありがとうございました。では基準 5、基準 6 に関しまして、皆様にご意見をお願いしたいと思えます。昨年度からの継続課題でもありますが、保護者様への接点の取り方や方法に関しましてご意見のほど、どうぞよろしく申し上げます。では大久保様よりお願いいたします。

大久保様：保護者の方とオンラインや対面で面談をされているということですが、それは全ての保護者様とでしょうか？

辻浦：全保護者の方に案内を出させていただいて、出席を希望される方には全員、面談をしております。全体からの率で言うと 35%前後となります。

大久保様：ありがとうございます。当校でも保護者の方とどうやったら連携が取れるのかという課題に苦慮しているようなところもありまして、現在では学校公開日いわゆる授業参観という日を設けて来ていただく、もしくは学校行事を動画配信して見ていただけるようにすることで、少しでも興味関心を持ってもらうところから始めている状況です。学校公開授業参観に来てくださる保護者の方は、お子様や学校に興味関心をとても持ってくださる方なので、連絡事もスムーズだったりするんですね。しかしなかなかコンタクトの取れない方との連携をどうするかというのは現状ではなかなかいいアイデアが浮かばないような状況です。休みが増えてきた学生や少し心配だなと思う学生へのアプローチは個別で学生並びに保護者に直接ご連絡して、なるべくコンタクトを取り続けるということしかできていないというような状況ではあります。従いましてこうしたらどうでしょうかという新しいアイデアはないのですが、何とかイベントなどを通じて来て来ていただくということを重ねて実行していこうというような状況であります。以上でございます。ありがとうございます。

辻浦：授業風景を見せたい、授業参観を行いという思いは当校でもすぐありまして、授業の風景を動画配信することは、昨年度の反省を踏まえて行ってみました。短時間で伝えることの難しさはありましたが、より多くの保護者様が少しでも積極的に関心を持ってくださるということに多分繋がっていきんだというのは、あの感じております。ご意見ありがとうございます。

宮崎様：大久保様ありがとうございました。では貴治様、よろしく申し上げます。

貴治様：保護者の連携なんですけども、学校の場合は、PTA や一定の方がお世話をして、講演会等を実施することがあります。また文化教室のようなことを開催して保護者の方が参加することがあります。例えばアーティスト美容であれば美容系のジャンルの講座や講演を開催し、お越しいただくという方法がとれるのではないのでしょうか。学習成果が出てこない学生の指導方法ですが、様々な原因があると思うのですが、高校ではコロナ禍で目標がなくなってしまうということがありました。生徒相談として呼びだしてもまったく来ませんが、カフェと言われる多様な生徒が集まってきてサロンみたいなことできる場所があり、その中でカウンセラーが教育相談をしているうちに授業に出てみようかとか、授業に出る刺激が出る場合があります。それでさぼりだと改善されるということもありました。それからあとは精神的弱者への指導方法ですが、これもなかなか難しい問題ですね。ただ学校ではよくありまして、専門のカウンセラー、担任、校長等が関心を寄せ、情報共有しケアしているんですけども、場合によってはどうしても医療的な分野になってきます。そういう場合は学校医だけではなく地域や専門の医師と連携して行うこととなります。過去は保護者や専門の先生に対応を委ねておりました。すぐに改善されたこともありますので、一つの事例としていただければと思います。

宮崎様：貴治様、ありがとうございました。では中上様、よろしく申し上げます。

中上様：地域のボランティアでも、普段は別の仕事や生活をしていますので、1 人来られて話題がないこともあります。そんな時にちょっと喋ってあげたら、次も出てくるかなって思っています。みんな人見知りはされ

るのでなるべく喋るようにするなっています。ボランティアは別に仕事ではないので、自発的にきてもらうしかないです。そこでちょっとした気遣いとか、その辺を私は気をつけてます。

宮崎様：中上様、ありがとうございました。続きまして川畑様、よろしくお願いいたします。

川畑様：そうですね。難しい問題で特に意見はないのですが、保護者との連携は電話をするなど今まで通りしてもらうしかないかもしれません。企業連携では個人向けのサロン等もありますので、その場での対応が必要な力となることがあります。といった力の訓練が必要だと思います。以上です。

宮崎様：川畑様、ありがとうございました。

では続きまして基準 7 の「学生の募集と受け入れ」の項目の報告させていただきます。

井田：入試課の責任者をしております井田と申します。まず 38 ページ「学生募集活動は、適切に行われているか」の項目の報告をいたします。学生募集に関しては、パンフレットやウェブサイトを通じての情報発信を行い、問い合わせ者に対して誤解を招かないように丁寧に、真実性をもって情報提供を行っています。そしてパンフレットやウェブでは伝えきれないような学校生活や種々のサポート等に関しては、来校促進をして確認していただくようにしています。またコロナ禍でイベントの参加が難しい方に、オンラインでのオープンキャンパスや、個別説明会を実施することで来校と同様の内容を提供するようにしています。続きまして、39 ページ「入学選考」に関してですが、まずは選考日程を明確にお知らせしております。また選考方法であります面接に関しても、内容は教務課と連携してマニュアルを作成しており、公平に評価ができるようにしております。課題としては入試が面接のみとなり、技術面での優劣を考慮することができないという問題があります。また学費減免の試験内容も、国語と英語の学力試験ですので、こちらも技術面や英会話の内容も確認でき、選考の内容に反映できないかと考えております。最後に「学納金」に関してご報告いたします。学納金の算出に関しては、各学科で毎年見直しを行っており、適正な価格設定をしております。学費だけではなく教材費、諸経費は特に精査して不必要なものがないかどうかを確認しております。学納金は募集要項に明示し、説明会でも丁寧に説明するようにしています。以上になります。

宮崎様：井田様、ありがとうございました。では委員の方からご質問がありませんでしょうか？ 大久保様。

大久保様：特に質問等はないです。業者さんから聞いた話ですが、最近の学生さんの傾向として安全志向が高く、確実に入れるとか、確実にというものを求める傾向が強まっていると聞いております。当校でもいわゆる大学受験に匹敵する選抜試験というものと、指定校や公募推薦があるのですが、指定校推薦で確実に入れることを希望する学生が増えてきているなというのはちょっと感じております。今後はそういった学生の特性に合致した選考方法も探っていられるようになるのではないかとこのように考えております。以上です。ありがとうございます。

宮崎様：大久保様、ありがとうございました。続きまして川端様、よろしくお願いいたします。

川畑様：特にはございません。

宮崎様：川畑様、ありがとうございました。続きまして貴治様、よろしくお願いいたします。

貴治様：特にはございません。

宮崎様：貴治様、ありがとうございました。続きまして中上様、よろしくお願いいたします。

中上様：特にはございません。

宮崎様：では引き続きまして、基準 8 「財務」に関してご報告いたします。財務に関しては委員の皆様

への質問はありません。では川添学校長代理、よろしくお願いいたします。

川添：では「財務」の項目に関してとなります。41 ページの総括を報告させていただきます。2010 年度まで 5 年連続で学生数、授業料収入が増加しておりました。2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もありまして収入減となっておりますが、当面の財務基盤は健全となっております。また寄付行為に基づき専任された 2 名の外部監事が財務会計監査を行っております。また財務情報公開を会計年度終了後 3 か月以内にウェブサイト上で財務諸表の公表をおこなっています。以上となります。

引き続き、基準 9 及び基準 10 の報告をさせていただきます。基準 9 「法令等の遵守」に関しましてはほぼ昨年度と変わりはありません。50 ページ中項目の課題になりますが、教職員間でもマイクロソフト社の Office365 を使用するようになり、アカウントの乗っ取りが発生しております。セキュリティ強化に努めてまいります。また 52 ページの学校評価に関してですが、2022 年度になりますが第 3 者評価を受審しており、現在書面調査が行われているところです。第 3 者評価の結果は 2023 年 3 月にホームページ上にアップする予定です。

基準 10「社会貢献・地域貢献」の報告を引き続きいたします。平成 21 年度は社会貢献活動、地域貢献活動、ボランティア活動はコロナ禍により全く行えなくなりました。いずれコロナ禍は過ぎ去ると思われませんが、対面以外でできる社会貢献、地域貢献を検討していくことが今後の課題となっています。また留学生との交流はオンラインでもある程度実行可能なことがわかりましたので、オンラインを使用して効果的な学修効果と国際交流の内容を検討していきます。以上となります。

宮崎様：川添学校長代理、ありがとうございました。では社会貢献・地域貢献に関しまして中上様よりご意見ございますでしょうか？

中上様：冒頭にも言いましたが今年になりすこずつ地域活動を再開しております。ECC の学生さんも以前はたくさん来てくれて地域のみんなども喜んでおられました。学生さんも大変喜んでいただいたんで、来年は以前と同じような感じでやっていこうかなとは思っています。私達もその若い方々との意見とか交流ができて喜んでいきますのでこれからもよろしくお願いいたします、よろしくお願いいたします。

宮崎様：中上様、ありがとうございました。以上で本日の議事は全て終了となります。では最後に川添学校長代理からご挨拶申し上げます。

川添：本日は貴重なご意見いただきまして誠にありがとうございます。本日は時間の都合で十分な返答ができていなかったことや新たに疑問点が出た場合は、いつでも構いませんのでまたご質問いただければと思います。改善を図っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。次回の学校関係者評価委員会は 2 月の中旬、平日の夕方からの開催を予定しております。本日のご意見に関しましての学校の取り組み、進捗状況を中心にご報告をさせていただきたいと思っております。日程に関しましては改めて皆様のご予定を調整をさせていただければと思っております。改めてご連絡申し上げますのでよろしくお願いいたします。それでは本日は誠にありがとうございました。

宮崎様：以上をもちまして、ECC アーティスト美容 2022 年度第 1 回学校関係者評価委員会を閉会いたします。委員の皆様ありがとうございました。

<了>